

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品名称 : プリグロックス L

供給者の会社名称 : O A T アグリオ株式会社

住所 : 東京都千代田区神田小川町 1-3-1
NBF 小川町ビルディング 8 階

担当部署 : 品質保証室

電話 : 088(684)0220

電子メールアドレス : sds_info@oat-agrio.co.jp

以下、次ページ以降の製造メーカーSDS 参照。

改訂日 2026 年 05 月 08 日 (第 20 版)

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	プリグロックス L
デザインコード	A13399T
会社名	シンジェンタジャパン株式会社
住所	〒104-6021 東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 10 号オフィスタワーX 21 階
担当部門	HSE グループ
電話番号	03-6221-1027
E メールアドレス	SDS-JP@syngenta.com
緊急連絡先	同上
急性中毒相談先	日本中毒情報センター 中毒 110 番 一般市民向け受信相談(無料): 大阪 (365 日・24 時間): 072-727-2499 つくば(365 日・24 時間): 029-852-9999 医療機関専用有料電話 (Syngenta 負担): 大阪 (365 日・24 時間): 072-726-9923 つくば(365 日・24 時間): 029-851-9999
推奨用途	除草剤
使用上の制限	推奨用途以外の用途に使用する場合は、専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類	
金属腐食性化学品	区分 1
急性毒性 (経口)	区分 4
急性毒性 (吸入)	区分 2
急性毒性 (経皮)	区分 3
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
皮膚感作性	区分 1
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2 (肝臓, 肺, 腎臓, 中枢神経系)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (肺, 呼吸器, 眼)
水生環境有害性 短期 (急性)	区分 1

水生環境有害性 長期(慢性)

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

区分 1



注意喚起語

危険有害性情報

危険

H290 金属腐食のおそれ。

H302 飲み込むと有害。

H311 皮膚に接触すると有毒。

H315 皮膚刺激。

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H318 重篤な眼の損傷。

H330 吸入すると生命に危険。

H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

H371 臓器 (肝臓, 肺, 腎臓, 中枢神経系) の障害のおそれ。

H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器 (肺, 呼吸器, 眼) の障害のおそれ。

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

- 安全対策**
- P203 使用前に全ての安全説明書を入手し、読み、従うこと。
 - P234 他の容器に移し替えないこと。
 - P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。
 - P264+P265 取扱後は手をよく洗うこと。眼には触らないこと。
 - P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
 - P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 - P273 環境への放出を避けること。
 - P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 - P284 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
- 応急措置**
- P301+P317+P330 飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。口をすすぐこと。
 - P302+P352+P316 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。救急医療機関に連絡すること。
 - P304+P340+P316 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。救急医療機関に連絡すること。
 - P305+P354+P338+P317 眼に入った場合: すぐに水で数分間洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医療処置を受けること。
 - P308+P316 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 救急医療機関に連絡すること。
 - P318 ばく露またはその懸念がある時、医学的助言を求めること。
 - P319 気分が悪い時は、医療処置を受けること。
 - P320 特別な治療が緊急に必要である。
 - P321 特別な処置が必要である。
 - P332+P317 皮膚刺激が生じた場合: 医療処置を受けること。

P333+P317 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医療処置を受けること。

P361+P364 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P390 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

P391 漏出物を回収すること。

保管 P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

P406 耐腐食性／耐腐食性内張りのある耐腐食性容器に保管すること。

廃棄 P501 内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分

化学名	CAS No.	含有量 (%)	化審法(ENCS)/ 安衛法 (ISHL) 番号
ジクワットジブロミド	85-00-7	7.0	5-3913
パラコートジクロリド	1910-42-5	5.0	-
塩酸	7647-01-0	>= 0.1 -< 1	1-215, 1-215

4. 応急措置

一般的アドバイス

緊急連絡先、中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、製品容器、ラベル、安全データシートを手元に用意すること。

吸入した場合

被災者を空気の新鮮な場所に移す。
呼吸が不規則または停止している場合は、人工呼吸を行う。
患者を暖かく安静にしておく。

皮膚に付着した場合

直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。
直ちに汚染された衣服を脱がせる。
直ちに多量の水で洗い流す。

眼に入った場合

皮膚の炎症が続く場合は、医師に連絡すること。
汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。
直ちに、最低 15 分間はまぶたの内側も含め、多量の水ですすぐ。
コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

緊急な医療処置が必要。
迅速な初期対応が不可欠。直ちに対処・治療を行う。
緊急な医療処置が必要。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	可能であれば、活性炭、ベントナイト、フーラー土などの吸収剤を使用する。 飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受け、この容器ないしラベルを見せること。 無理に吐かせないこと。 口腔内、気管、食道の炎症。 胃腸の不快感。 下痢。 飲み込むと有害。 皮膚に接触すると有毒。 皮膚刺激。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 重篤な眼の損傷。 吸入すると生命に危険。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。 臓器の障害のおそれ。
医療関係者への情報	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。 「急性中毒初期対応のポイント：農薬・工業用品編」の小冊子を参照のこと。 活性炭(大人の場合100g、子どもの場合は体重1kgにつき2g)か、フーラー土(15%水溶液を大人の場合1L、子どもの場合は体重1kgにつき15ml)を投与する。 注意:吸着剤を投与しないで胃洗浄を行っても、臨床上有効性は見られなかった。 酸素補給を行わないこと。 高濃度の溶液が目に入った場合、応急処置後眼科医の処置を受けること。 パラコートで眼を負傷した場合、遅発性の角膜潰瘍の可能性があることから、症状が現れたときは眼科医の診察を受けること。 眼に入った場合:一見すると些細な接触で重症化することもあり、完治するには時間がかかる。

5. 火災時の措置

消火剤	小規模火災時: 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	大規模火災時: 耐アルコール性泡消火剤、噴霧放水
特有の危険有害性	棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。
有害燃焼副産物	可燃性有機成分を含有するため、火災時に有害性物質を含む黒煙が発生するおそれがある(「10. 安定性及び反応性」参照)。
特有の消火方法	分解生成物へのばく露は健康を害する可能性がある。
	炭素酸化物
	窒素酸化物(NOx)
	塩素化合物
	臭素化合物
	火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止する。
	水を噴霧して密閉容器を冷却する。

消火を行う者の保護

完全な保護服と自給式呼吸器を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
環境に対する注意事項

「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い必要に応じて保護具を着用する。

安全を確認してから、漏出または流出防止の措置をとる。

河川または下水システムに排水しない。

製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。

封じ込め、浄化の方法及び機材

漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤（砂、土、珪藻土、バーミキュライト等）を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる（「13. 廃棄上の注意」を参照）。

汚染面を十分に浄化する。

洗剤で拭く、溶剤は避ける。

汚染された洗浄水を保管し、処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項

火災に対する特別な対策は必要ない。

皮膚や眼への接触を避けること。

使用中は飲食及び喫煙を禁止する。

個人保護については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照する。

接触回避

アルミニウム

軟鋼

鉄

保管

安全な保管条件

特別な保管条件は必要ない。

容器を密閉して、乾燥した、涼しく換気の良い場所で保管する。

子供の手の届かないように保管すること。

食品、飲料水、動物の餌から離しておく。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度

成分	CAS 番号	指標	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
ジクワットジプロミド	85-00-7	TWA	0.5 mg/m ³ (吸入性粒子)	ACGIH (2026 年)
		TWA	0.1 mg/m ³ (呼吸性粒子)	ACGIH (2026 年)
パラコートジクロリド	1910-42-5	TWA	0.01 mg/m ³ (呼吸性粒子)	Syngenta (2025 年)

		TWA	0.05 mg/m ³ (吸入性粒子)	ACGIH
塩酸	7647-01-0	OEL-C	2 ppm 3 mg/m ³	日本産業衛生学会 (許容濃度 2025 年)
		TLV-C	2 ppm	ACGIH (2025 年)

設備対策

ばく露が避けられない場合、密閉および/または隔離することが、技術的に最も確実な防御手段となる。

保護対策の範囲は、使用時のリスクによって異なる。

空気濃度を管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度値以下に保つ。

必要に応じて、追加の労働衛生に関連する情報を求める。

保護具

呼吸用保護具

通常、呼吸用保護具は必要ない。

労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合、適切な認定呼吸器を使用すること。

手の保護具

材質

ニトリルゴム

破過時間

>480min

手袋の厚さ

0.5mm

備考

保護手袋を着用すること。適切な手袋を選ぶには、素材のみでなく、その他の品質に関する特徴を考慮する。製造者によっても違うので、その点にも注意する。手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。破過時間は、素材の特徴の中でも、手袋の厚さと種類によって決定されるので、その時々測定されなければならない。手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候がわずかにでもある場合は、手袋を破棄し取り替えるなければならない。

眼の保護具

製品と眼が不慮に接触する可能性を払拭できない状況では常時ゴーグルを着用してください。

密着性の高い安全ゴーグル

フェイスシールド

皮膚及び身体の保護具

適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。

汚染された衣服は洗浄してから再使用する。

不浸透性衣服を必要に応じて着用する。

保護対策

個人用保護具ではなく専門の保護具の使用を優先すること。

個人用保護具の選定については専門家のアドバイスを求める。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

暗青緑色

臭い

データなし

臭いのしきい(閾)値

データなし

融点/凝固点

データなし

沸点, 初留点及び沸騰範囲

データなし

可燃性(固体、気体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発範囲の上限 / 可燃 上限値	データなし
爆発範囲の下限 / 可燃 下限値	データなし
引火点	データなし
分解温度	データなし
pH	4.5
蒸発速度	データなし
自然発火温度	データなし
粘度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
動粘度(動粘性率)	データなし
溶解度	データなし
水溶性	データなし
溶媒に対する溶解性	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度	1.053 g/cm ³
相対ガス密度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
表面張力	データなし
粒子サイズ	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	危険有害反応可能性を参照。
化学的安定性	通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	金属と接触し腐食させる。
避けるべき条件	指示通り使用すれば分解しない。
混触危険物質	アルミニウム 軟鋼 鉄
危険有害な分解生成物	危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報	飲み込んだ場合 吸入した場合
----------------	-------------------

皮膚に付着した場合
眼に入った場合

急性毒性

飲み込むと有害。
吸入すると生命に危険。
皮膚に接触すると有毒。

製品

急性毒性(経口)	急性毒性推定値: 1,259 mg/kg 計算による方法
急性毒性(吸入)	急性毒性推定値: 0.097 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト 計算による方法
急性毒性(経皮)	急性毒性推定値: 808.87 mg/kg 計算による方法

成分

ジクワットジプロミド

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): 399.75 mg/kg ヒトに対する致死量はジクワット約4～6g(約60mg/kgに相当)である。 吐き気、嘔吐、腹痛を引き起こすことがある。
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オス): 0.226 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 792 mg/kg

パラコートジクロリド

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): 計算値 80.7 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, メス): 計算値 0.00083 – 0.00193 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト 成分/混合物は短時間の吸引後極めて有毒。
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): 計算値 922 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性

皮膚刺激。

成分

ジクワットジプロミド

種	ウサギ
結果	皮膚に刺激性。 爪の変色、ひび割れ喪失を引き起こす可能性がある。その後は遅れることなく普通にのびる。

パラコートジクロリド

結果	皮膚に刺激性。
----	---------

塩酸

結果	3分以下のばく露で腐食性。
----	---------------

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

から、区分2とした。

パラコートジクロリド

生殖毒性 - アセスメント 生殖に対する毒性はない。

特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)

臓器 (肝臓, 肺, 腎臓, 中枢神経系) の障害のおそれ。

成分

ジクワットジブロミド

アセスメント

動物を用いた経口投与試験において下痢、尿失禁、および行動抑制が認められた。また、致死量経口摂取後24時間は症状が軽く、その後嗜眠、呼吸困難、体重減少、衰弱を起し死亡する(2~14日)との報告がある。以上より本物質は中枢神経系と腎臓に影響を及ぼすと考えられる。したがって区分1 (中枢神経系、腎臓) とした。

パラコートジクロリド

アセスメント

経口摂取での中毒症例が多数報告されている。症状としては、急性肺水腫、肺線維症、急性腎不全、急性肝不全が生じることから、区分1 (肺、肝臓、腎臓) とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器 (肺, 呼吸器, 眼) の障害のおそれ。

成分

ジクワットジブロミド

標的臓器

呼吸器、眼、消化管

アセスメント

動物を用いた試験において多巣性慢性間質肺炎、肺の発赤等、肺の絶対・相対重量増加の報告がある。また反復経口投与毒性試験においても、白内障、水晶体の混濁、体重増加の抑制、大腸炎が認められている以上から区分1 (呼吸器、眼)、区分2 (消化管) とした。

パラコートジクロリド

標的臓器

肺

アセスメント

実験動物への経口投与において肺胞内の出血、びまん性の線維化、上皮過形成、肺水腫等がみられていることから、区分1 (肺) とした。

誤えん有害性

データが不足しているので分類されていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

成分

ジクワットジブロミド

魚毒性

LC50 (ニジマス): 計算値 10.46 mg/l
ばく露時間: 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 (オオミジンコ): 計算値 2.49 mg/l
ばく露時間: 48 h

藻類／水生植物に対する毒性

ErC50 (淡水珪藻): 計算値 0.001148 mg/l
ばく露時間: 96 h
最大無影響濃度 (淡水珪藻): 計算値 0.0005945 mg/l

	ばく露時間: 96 h
M-ファクター (水生環境有害性 短期(急性))	100
魚毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (ファットヘッドミノウ): 計算値 0.04726 mg/l ばく露時間: 34 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (オオミジンコ): 計算値 0.0504 mg/l ばく露時間: 21 d
M-ファクター (水生環境有害性 長期(慢性))	100
パラコートジクロリド	
魚毒性	LC50 (ニジマス): 計算値 24 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性	EC50 (オオミジンコ): 計算値 2.65 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (淡水性緑藻): 計算値 0.26 mg/l ばく露時間: 96 h 最大無影響濃度 (淡水性緑藻): 計算値 0.02 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 96 h ErC50 (淡水珪藻): 計算値 0.00044 mg/l ばく露時間: 96 h 最大無影響濃度 (淡水珪藻): 計算値 0.00028 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 96 h
M-ファクター (水生環境有害性 短期(急性))	1000
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性 (慢性毒性)	EC10 (オオミジンコ): 計算値 0.31 mg/l ばく露時間: 21 d
M-ファクター (水生環境有害性 長期(慢性))	100
残留性・分解性	データなし。
成分	
ジクワットジプロミド	
水中での安定性	分解半減期: > 30 d 水中において難分解性。
パラコートジクロリド	
水中での安定性	分解半減期: > 30 d 水中において難分解性。
生体蓄積性	
成分	
ジクワットジプロミド	
生体蓄積性	低い生態蓄積性。
パラコートジクロリド	
生体蓄積性	生物濃縮されない。
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	log Pow: -4.5 (20 °C)
土壌中の移動性	

成分**ジクワットジプロミド**

環境中の分布

移動しない。

土中での安定性

消失時間: 11 – 41 yr

消失割合: 50 % (DT50)

地中において難分解性。

パラコートジクロリド

環境中の分布

移動しない。

土中での安定性

消失時間: 20 yr

消失割合: 50 % (DT50)

地中において難分解性。

オゾン層への有害性

非該当

他の有害影響**成分****ジクワットジプロミド**

PBT および vPvB の評価結果

物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。

パラコートジクロリド

PBT および vPvB の評価結果

物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物

薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。

廃棄物を下水へ排出してはならない。

可能ならば、廃棄や焼却処理より再利用する方が好ましい。

リサイクルできない場合は、地域の規制に従って処分する。

汚染容器及び包装

残りの内容物を空にすること。

容器は 3 回すぐ。

空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

空の容器は再利用しない。

14. 輸送上の注意**国際規制****陸上輸送(UNRTDG)**

国連番号

UN 1760

国連輸送名

腐食性液体(別に規定のないもの)
(ジクワットジプロミド、パラコートジクロリド)

国連分類

8

容器等級

III

ラベル

8

環境有害性

該当

航空輸送(IATA-DGR)

国連番号

UN 1760

国連輸送名	腐食性液体(別に規定のないもの) (ジクワットブロミド、パラコートジクロライド)
国連分類	8
容器等級	III
ラベル (Labels)	Corrosive

梱包指示(貨物機) (Packing instruction (cargo air-craft)) 856

梱包指示(旅客機) (Packing instruction (cargo air-craft)) 852

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号	UN 1760
国連輸送名	腐食性液体(別に規定のないもの) (ジクワットブロミド、パラコートジクロライド)
国連分類	8
容器等級	III
ラベル	8
EmS コード (EmS Code)	F-A, S-B
海洋汚染物質	該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質(該当・非該当)

供給された状態の製品には非該当

国内規制

特定の国内規制については、「15.適用法令」を参照。

緊急時応急措置指針番号 154

特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのため、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいている。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性がある。

15. 適用法令

関連法規

農薬取締法

登録番号第 16397 号

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)

非該当

変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第57条の2(則 34 条の 2 別表2)

化学名	含有量(%)	備考
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド (別名ジクワット)	7.0	-
1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジニウム=ジクロリド (別名パラコートジクロリド)	5.0	-
塩酸	>= 0.1 -< 1	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第57条(則 30 別表2)

化学名	備考
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド(別名ジクワット)	-
1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジニウム=ジクロリド(別名パラコートジクロリド)	-
塩酸	-

皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第 594 条の2)

化学名
1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジブロミド(別名ジクワット)
1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジニウム=ジクロリド(別名パラコートジクロリド)

がん原性物質(労働安全衛生規則第 577 条の2)

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一(危険物)

非該当

毒物及び劇物取締法

毒物

化学名	政令番号
-----	------

1,1'-ジメチル-4,4'-ジピリジニウムヒドロキシド、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤	15.2
--	------

劇物

化学名	政令番号
2,2'-ジピリジリウム-1,1'-エチレンジブロミドを含有する製剤	47

非該当

化学物質排出把握管理促進法

第一種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量(%)
1,1'-エチレン-2,2'-ジピリジニウム=ジブロミド (別名ジクワット)	63	7.0
1,1'-ジメチル-4,4'-ジピリジニウム=ジクロリド (別名パラコートジクロリド)	227	5.0

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 腐食性物質

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: 腐食性物質

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 有害液体物質には該当しない。

個品輸送 海洋汚染物質

水質汚濁防止法

非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物(第一種指定化学物質を含む)

16. その他の情報

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含む。2 項には政府による GHS 分類結果が反映されているため、11 項及び 12 項の試験結果と合致しない場合がある。

JIS Z 7252, JIS Z 7253 2025 に準拠

記載内容の取扱い

製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考資料として、当該化学製品を取扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取扱う事業者は、

個々の取扱い等の目的への適合性を判断し、この安全データシートや製品ラベルに記載のものを含め、実状に応じたあらゆる適切な予備的措置を講じてください。

当社のいかなる保証違反においての責任は、製品の交換又は購入額の払い戻しに限られます。当該製品を取扱う事業者が、上記の適切な予備的措置を講じなかった場合、シンジェンタは責任を負いません。

その他の略語全文

ACGIH

米国。ACGIH 限界閾値(TLV)

ACGIH / TWA

8 時間、時間加重平均

日本産業衛生学会(許容濃度) / OEL-M

許容濃度

改訂履歴

改訂年月	項目	改訂箇所および内容	改訂理由
2026 年 5 月 (第 20 版)	1 項	使用上の制限追加	安衛法改正による見直し
		急性中毒の緊急問い合わせ先	Syngenta による記載方法の見直し
	2 項	GHS 分類追加 急性毒性 (吸入)区分1 から区分 2 に変更 急性毒性 (経口)区分 4,急性毒性 (経皮)区分 3 追加 危険有害性情報追加 (H302,H311,H317)	NITE の GHS 区分の見直し
		安全対策追加(P203,P265,P272) 削除(P201,P202)	JIS 改正による見直し
		応急措置追加 (P301,P316,P317,P318,P319,P320,P321,P330,P332,P361) 削除(P310,P311,P312,P313,P362)	
	3 項	組成記載変更	Syngenta global データ改訂による見直し
	4 項	急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	5 項	有害燃焼副産物追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	8 項	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度出典年度追加	Syngenta global データ改訂による見直し
	11 項	成分データ追加(塩酸)	Syngenta global データ改訂による見直し
	14 項	国連番号変更 UN2922 から UN 1760 に変更	Syngenta global データ改訂による見直し
	15 項	名称等を通知/表示すべき危険物及び有害物追加(塩酸) 皮膚等障害化学物質追加(ジクワット,パラコートジクロリド)	安衛法改正による見直し

		劇物追加(劇物 2,2'-ジピリジリウム-1,1'-エチレンジブ ロミドを含有する製剤)	毒劇法
	16 項	その他の情報文言追加	JIS Z 7252, JIS Z 7253 2025 に準拠